木質ボード・建材

差別化と提案力を強化

山本　純也氏

宮田　浩史氏

内藤　喬文氏

田伏　大伸氏

川上　雅文氏

間﨑　泰光氏

海堀　直樹氏

山本純也氏（北海道斜里郡、札鶴ベニヤ社長、43歳）は、故山本忠顕前社長の次男で、誕生日は11月3日、文化の日であり「合板の日」。99年3月に東洋大学を卒業後、ガス給湯器メーカーの高木産業（現パーパス）で5年余のセールス修業を経て、2004年8月に白糠工場に勤務し生産・営業の全般を担当している。社長就任後の最大の決断は本社工場の閉鎖と白糠、恋問両工場間での合理化と機能連携構築だ。叔父の山本会長の支援を得て、シナ合板の品質を維持しながら時代に合致する製品づくりに合意できた。

川上雅文氏（茨城県牛久市、淡路技建代表取締役社長、45歳）は、営業本部長としての実績が評価され3年前に社長に抜擢された。社長就任後も、社員の意識改革、指示系統の明確化、本社工場の効率化、受発注システムの導入などの改革を矢継ぎ早に実施してきた。

力を入れて取り組むのは新規事業だ。昨年のコラボや自社の研究開発部門の運用を通じ、健康性・意匠性・SDGs等を軸にした商品に焦点を合わせていく。

間﨑泰光氏（大阪府岸和田市、センエイ社長、56歳）は、先代社長の間﨑清志氏（現会長）が上松商事の合板加工や保管部門を分離独立させて設立したセンエイのバトンを2000年に引き継ぎ、経営手腕を発揮している。これまでに伊万里工場の閉鎖や建材メーカー向け合板加工、船舶等の特定顧客向けの塗装合板等の開発など選択と集中を行ってきた。同社のキャッチフレーズである「合板加工の開発工場」を実践している。23年には上松商事から数えて50周年。「もう一段上の成長を目指すためにも設備投資と人材育成の水平展開はこれからも行っていく」と話す。

内藤喬文氏（大阪市、林ベニヤ産業常務取締役、41歳）は、大学卒業後にアイカ工業で9年半を過ごし、15年10月に林ベニヤ産業に入社した。「アイカ工業時代とは違い、合板の世界は独特。市況に左右されず、できるだけ安定価格、安定供給ができないものか」と、顧客に対して〝安心感〟を一番大事にしている。構造用合板のほか、針葉樹合板合板や階段部材など新しい用途開拓に力を入れている。4月から舞鶴で稼働した木質バイオマス発電は「本当の意味でのサステナブルな会社という形で、循環型で環境にも配慮したものをさらに強めていきたい」と話す。

海堀直樹氏（大阪市、朝日ウッドテック常務営業本部長、36歳）は、父に海堀芳樹会長、従兄弟伯父に海堀哲也社長を持つ。海堀家に伝わる木とともに歩むDNAと社員らの協業で新たな商品開発の先鞭を付ける人物だ。同氏は2年間ノーリツに勤務した後、朝日ウッドテックに入社、今年で11年目を迎えた。東京と大阪で営業を3年ほど経験し、その後工場に入って調達部長、生産副本部長を務め、15年6月に取締役、16年4月から現職の営業本部長に就任した。この工場と営業での経験が全体最適の考えを同氏に植え付け、営業本部長でありながら、生産の立場も理解した販売戦略を実践している。特に海外や非住宅など新市場への積極的な取り組みやモノづくりには管掌役員として力を入れている。

田伏大伸氏（東京都、マルコー社長、48歳）は、マンションでのフローリング施工に力を入れ、同社をマンション床施工の有力企業に成長させた。今後、日本が直面する職人不足と建築需要の低迷という課題に、建材メーカー、施工企業の垣根を越えた取り組みが必要だと考える。

「建設需要が本格的に厳しくなるのは2～3年後。その状況に耐えうる企業体制を構築しなければならない。また社員一人ひとりに、事業の目標と今後取り組むべき改善点を意識させ、コスト削減も図る」と語る。

建築

木造の可能性を開く

安井　昇氏

中川　貴文氏

村上　淳史氏

岡田　健太郎氏

金井　邦夫氏

安井昇氏（東京都、桜設計集団一級建築士事務所代表、東京都、51歳）は、木造の防耐火関連の専門家。現在はNPOチームティンバライズの理事としても活動し、木材の燃え方、そのコントロールの仕方を学んでもらうよう「火育」活動にも取り組んでいる。

これからの研究テーマは「75分準耐火構造に製材の燃えしろ設計」を導入すること。建築士事務所の大径木を使い、表面割れを防ぐ乾燥方法や大径木から芯去りで平角2丁をとってビス止めする方法などを開発中。「構法開発と合わせて準耐火4階建てを製材で実現したい」。

中川貴文氏（京都府宇治市、京都大学生存圏研究所准教授、45歳）は、住宅倒壊シミュレーションソフト「ウォールスタット」を一人で開発した。東京大学農学部の博士論文で、木造住宅の耐震診断について執筆し、このとき、ウォールスタットの原型となるプログラミングを完成させた。2010年に第1弾を無料で公開し、現在バージョン4・3まで更新。ダウンロード回数は4万件を超え、19年1月には耐震性能見える化協会を設立。これまでに4号建築物（2階建て木造住宅）を直下率という指標を用い、NPO木の建築フォラム、木造住宅デザイン研究会ユア・ホームや芝浦工業大学蟹澤研究室などで構造実態調査・分析を行いながら、より良い設計ルールの作成に取り組んできた。

今後も構造計画の重要性などの普及・啓蒙や、安全・安心な住宅、非住宅の設計に尽力していく。

岡田健太郎氏（横浜市、岡田工業専務、41歳）は、住宅基礎ユニット鉄筋や摩擦減震パッキンUFO-Eを提供する同社で、フィリピンに展開する技能実習生トレーニング事業やCADチームオペレーションサービスなどを行ってきた。「フィリピンでの事業は全くなく不安もあったが、この事業を展開することでより多くの建築業界とのつながりができ、良い経験になった。今後も柔軟な事業体制で時代に合ったサービス、商品を提供していきたい」。

金井邦夫氏（東京都、カナイ常務、42歳）は、建築金物が住まい手の命を守る役割があることを重要視し、会長を務める木造住宅接合金物協会での活動を高めていく。

98年にカナイに入社。建築する者が要望する性能がある建築金物を製造し、それが使われていくことが喜び。社業での経験を生かしつつ、協会ではトレンドに合った金物開発研究の自発的な取り組みに力を入れる。「多くの関連企業の受け入れも積極的に行い、研究できる分野を増やしていきたい」。

一般建築木材・新建材販売
村
有限会社村尾材木店
〒202-0005 東京都西東京市住吉町1丁目8番16号
TEL:042-421-1339(代) FAX:042-421-1818
E-mail:muraozaimoku@m-zaimoku.co.jp 定休日 日曜・祭日・第2土曜日

住む人の心にしみる木の香り
想い出をつくる「木」のセレクトショップ
竹広林業株式会社
〒250-0002 小田原市寿町3-1-39
TEL 0465-34-6600 ㈹ FAX 0465-35-6604
http://www.takehiro-ringyo.co.jp

S
清水木材株式会社
SHIMIZU LUMBER CO.,LTD.
URL http://smzw.net E-mail marugamesm@smzw.jp
本　社：神戸市兵庫区今出在家町3丁目2−34
TEL 078-651-1111 FAX 078-651-7887
丸亀工場：香川県丸亀市蓬莱町3−4
TEL 0877-25-1111 FAX 0877-25-1115
丸亀第二工場：香川県丸亀市蓬莱町28−12
丸亀第三工場：香川県丸亀市蓬莱町30